

資料 6 - 1

排出放射能影響調査事業及び排出放射性物質影響調査設備等整備等事業検証委員会（第 1 回）

R3.3.16

公益財団法人

# 日本海洋科学振興財団

JAPAN MARINE SCIENCE FOUNDATION

— 概要 —



## 目次

1.	海洋科学振興財団について	
	1-1) 目的・沿革・事業内容	・・・ 3
	1-2) 組織図・施設	・・・ 4
2.	海洋科学振興財団と排出放射性物質等影響調査	
	2-1) 調査事業との関係	・・・ 5
	2-2) 調査事業目的	・・・ 6
	2-3) 事業費・人員の推移	・・・ 7
	2-4) 事業の将来計画	・・・ 8

# 1. 海洋科学振興財団について

3

## 1-1)目的・沿革・事業内容

### ●目的(定款 から抜粋)

海洋科学及び技術(海洋に係る放射性物質及び放射線に関するものを含む)の研究の振興を図るとともに、海洋科学及び技術に関する調査、研究等を行うことにより、我が国の海洋に関わる科学技術の発展に寄与すること

### ●沿革

昭和46年 日高海洋科学振興財団 設立

初代東京大学海洋研究所長故日高孝次により設立

平成 7年10月 名称及び寄付行為の一部を変更 日本海洋科学振興財団発足

### ●事業内容(定款 から抜粋)

- (1) 海洋科学及び技術の研究の分野において、我が国及び外国の優れた業績を挙げた者又は団体に対する日高賞その他褒賞の授与
- (2) 海洋科学及び技術の発展に重要と認められる研究に対する研究費の援助及び海外渡航費の援助
- (3) 海洋科学及び技術に関する調査及び研究
- (4) 海洋科学及び技術に関する図書及び資料の収集並びにその一般利用への提供
- (5) 内外の重要文献及び資料の紹介並びに配布
- (6) 海洋科学及び技術に関する科学技術館等の設置・運営
- (7) その他、当法人の目的達成に必要な事業

# 1. 海洋科学振興財団について

## 1-2)組織図・施設

### 組織図



### 施設(六ヶ所沖合放射能等調査)

むつ海洋研究所

(事務所等を原子力研究開発機構より借用)



試験研究棟 平成14年竣工 300㎡  
排出放射性物質影響調査(補助金)で整備



六ヶ所沖合係留式ブイ 4

六ヶ所村沖合影響調査に関わる部署

\*:運営管理業務(原子力研究開発機構から受託)

## 2. 海洋科学振興財団と排出放射性物質影響調査 5

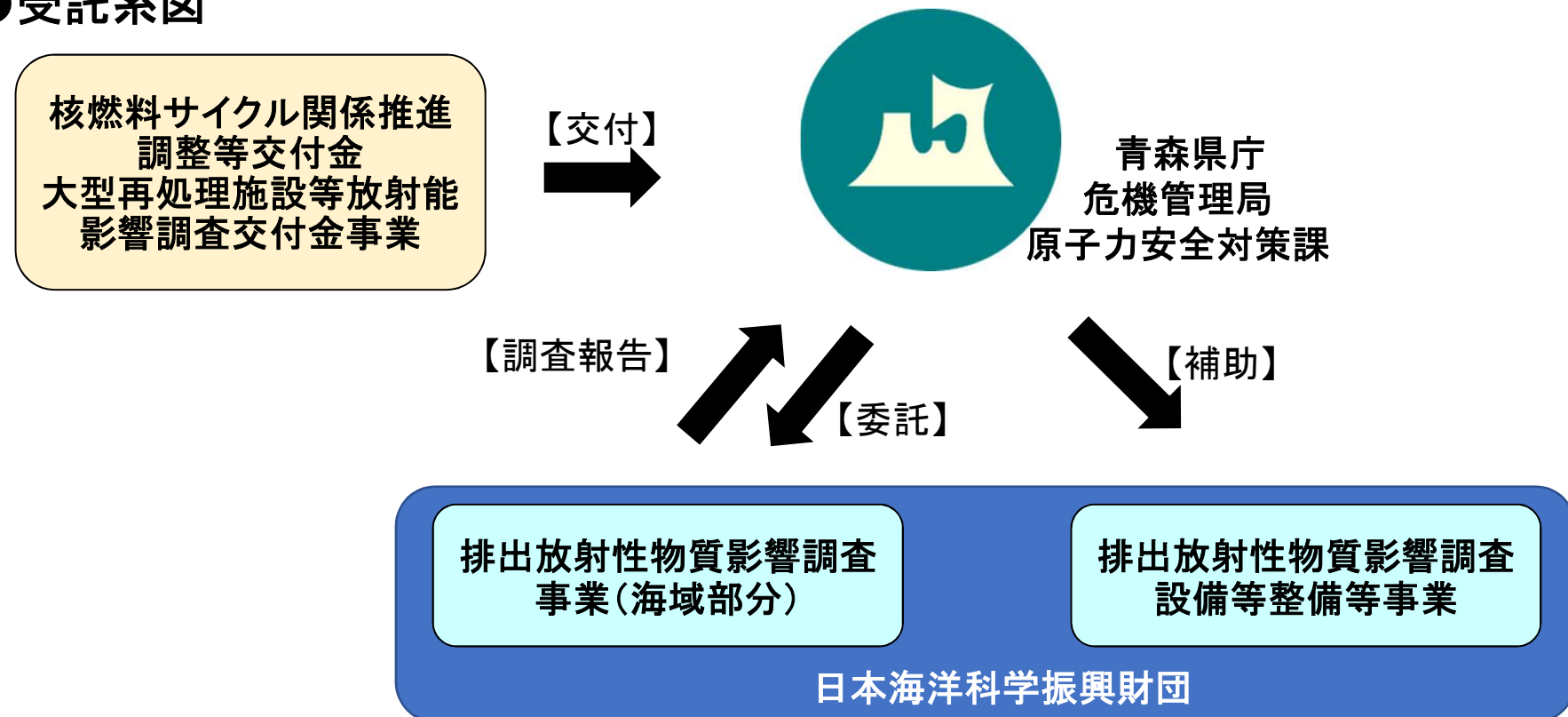
### 2-1) 調査事業との関係

#### ● 受託日時

平成7年財団発足時より

六ヶ所村沖合海洋放射能等調査(排出放射性物質影響調査の海域部分)  
を受託

#### ● 受託系図



## 2. 海洋科学振興財団と排出放射性物質影響調査 6

### 2-2)調査事業目的

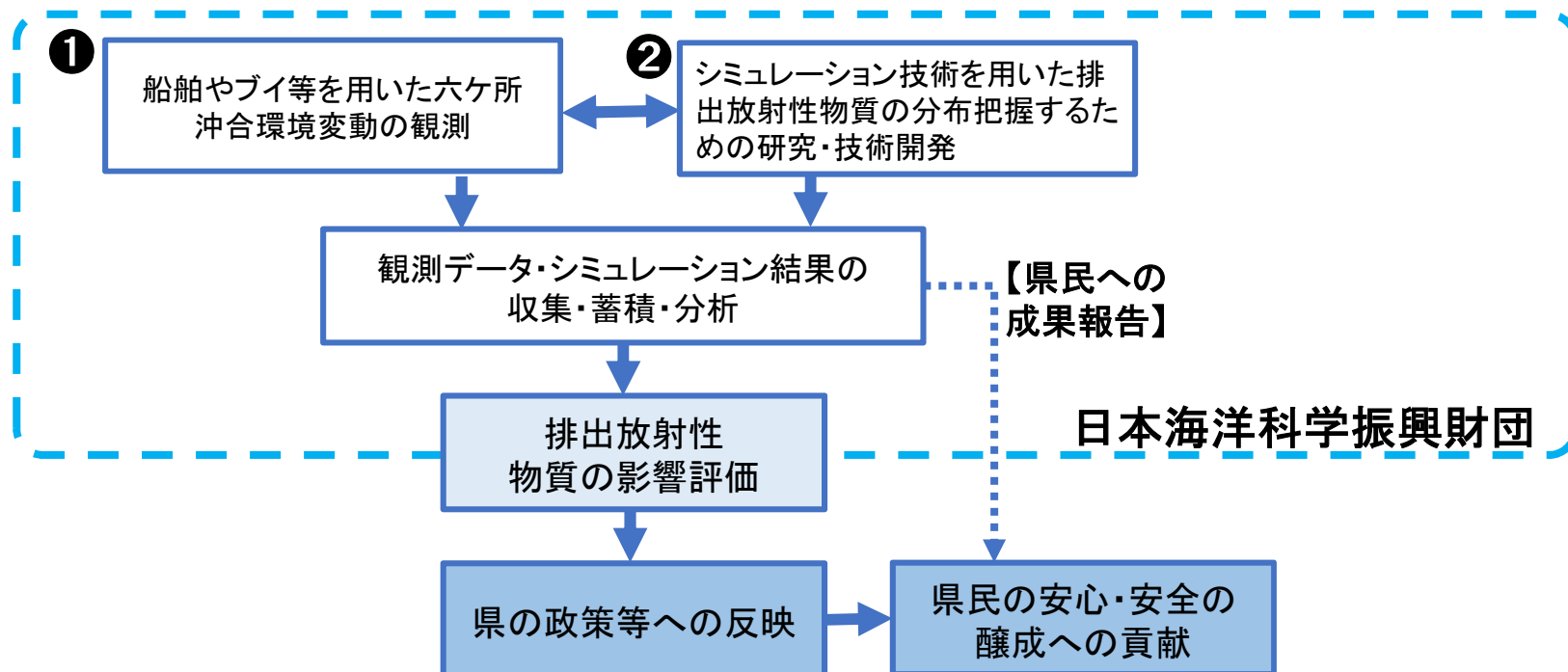
#### ●事業目的と目標(今期:平成29年度から令和3年度まで)

青森県民(国民)の安心・安全の醸成のために大型再処理施設竣工後、

- ①施設から周辺海域へ放出される放射性物質の影響を長期的観点から適切に把握する。
- ②排出放射性物質の海洋の中での挙動をできる限り正確(より現実に即した)に再現する。

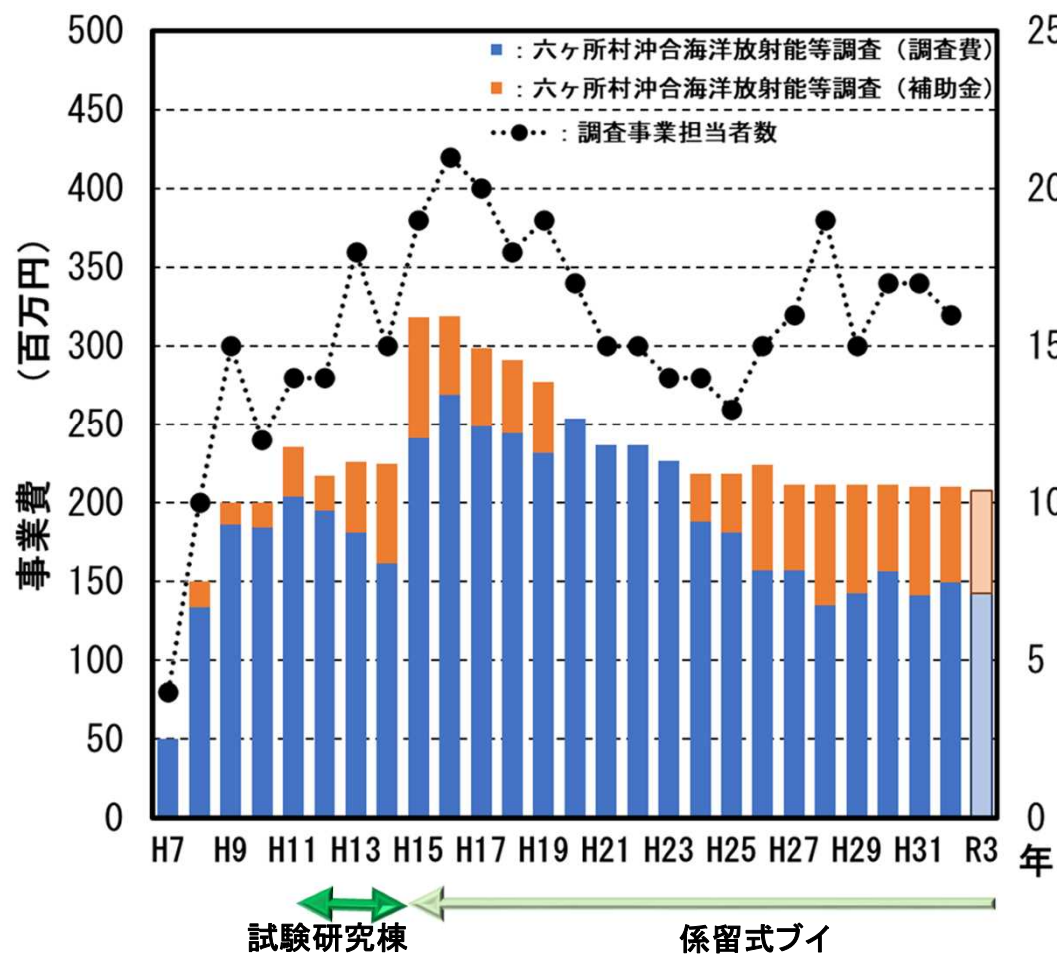
なお、環境科学技術研究所においては海産生物への放射性物質の移行機構、陸域・淡水域を理解するためにそれらに接した極沿岸域を対象とした研究が行われている。

#### ●事業実施の流れ



# 2. 海洋科学振興財団と排出放射性物質影響調査 7

## 2-3)事業費・人員の推移



注: H20~H23 調査費と補助金の区別なし

六ヶ所沖合放射能調査事業費  
直近3年間 (千円)

年度	調査費	補助金*
H31	141,568	68,774
R2	149,444	60,898
R3	142,604	65,147

\*: 施設整備費・運営費

事業に関わる人数(R2年末)

	員数(人)
20歳台	2
30歳台	0
40歳台	6
50歳台	6
60歳以上	2+(1)
計	16+(1)

注1: 人数には事務担当者を含む

注2: (1)は事業を統括している常務理事



## 2. 海洋科学振興財団と排出放射性物質影響調査 8

### 2-4)事業の将来計画

令和4年度の大型再処理施設の操業予定を踏まえ、排出放射性物質放出による影響に対する不安に科学的な立場から答えるとともに事業によって得た情報を活用して立地地域の発展に貢献する。

●実現へ向けての方策  
不安及びニーズに答えるための  
事項

